

社員の素顔など発信

電子楽器大手ローランド（浜松市北区）が、社員の素顔や社内の裏話を紹介するユニークなメールマガジンを配信している。タイトルは「ローランドの楽屋にて」。元社員の女性が、音楽やアニメにまつわるネタを織り交ぜながら軽いタッチの文体で届け、メーカーと楽器ファンとのつながりを強めようとしている。

（久下悠一郎）

ローランドユニークなメルマガ

メルマガは昨年末に創刊。同社のホームページで登録すれば受け取ることができ、現在は毎週金曜日に配信している。社員がよく通う本社近くのカフェを紹介したり、子供たちを招いた工場見学の様子を報告したりと、地域に絡んだ題材も多く扱っている。

「楽器弾けたらモテるのか?!」と銘付った回では、読者の声を紹介。「中学の時、合唱でピアノを弾いていたので、その頃はとてもモテました」との体験談には、「きれいな大きい手で余裕で奏でられる伴奏に萌えました」とのコメントを添えるなど、ユーモアあふれる中身となっている。

「人に焦点を当てたミニドキュメンタリーのような内容を目指している」

こう語るのは、メルマガを執筆する坪井佳織さん（仮）＝北区根洗町。学生時代からローランド製品の販売に携わり社員となったが、結婚や出産を機に退職。現在は音楽教室を主宰し、音楽に合わせて体を動かす子供向けのリトミックなどを教える。自身で発行していた子育てに関するメルマガが同社幹部の目に留まり、文章力を買われてライターに抜てきされた。

メールマガジンについて打ち合わせをする坪井佳織さん（仮）と山本敬之さん＝浜松市北区細江町のローランド本社で



坪井さんが印象に残っているのは、社

元社員執筆 メーカーとファンの絆づくり

メールマガジンで紹介された工場見学の様子＝ローランド提供

員寮に若手の男性社員を訪ねた「シンセの隙間で寝る男」の回。室内の限られた空間に十台ほどのシンセサイザーや機材を積み上げるように並べ、楽曲制作に打ち込む日常を伝えた。飾られていたガンダムのプラモデルも写真で紹介。坪井さんは「シンセやアニメが大好きで、お客さんと同じ目線で楽器を作っていることを伝えたかった」と振り返る。

メルマガを通じて同社が狙うのは「ファンとの絆づくり」だと、担当者の山本敬之さん（仮）は言う。「まずは社員や社内の雰囲気を知ってほしい。直接語り掛けることで、お客さんが何を求めているかを探り、商品化にもつなげたい」。坪井さんも「ちょっと変わった人でも、会社で前向きに活躍していることが伝われば。子供の将来に不安を感じるお母さんにも読んでほしい、背中を押したい」と語る。

